

支 出 書

会 派 名	市 民 連 合	整理No. 2 - 1
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 ☒ 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	1 4 7 , 4 8 0 円	
支出年月日	2 0 2 3 年 1 0 月 2 日	
支 出 内 容	1 0 月 2 5 日 ~ 2 6 日 福岡県北九州市 「第 1 8 回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州」 への出張旅費	
支 出 先	別添、領収書のとおり	

領 収 書 (該当○印)	☒ (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の 内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

領収書添付用紙

支出書整理No. 2 - 1

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 市民連合

2023年10月2日

(代表者) 池上文夫 様

¥49,160

但、10月25日～26日、北
九州市への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交通費	28,160円	北九州市
日 当	6,200円	2 日
宿泊料	14,800円	1 泊
()	49,160円	

(会派名) 市民連合

(名 前) 池上文夫



領 収 書

(会派名) 市民連合

2023年10月2日

(代表者) 池上文夫 様

¥49,160

但、10月25日～26日、北
九州市への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交通費	28,160円	北九州市
日 当	6,200円	2 日
宿泊料	14,800円	1 泊
()	49,160円	

(会派名) 市民連合

(名 前) 小山友康



領 収 書

(会派名) 市民連合

2023年10月2日

(代表者) 池上文夫 様

¥49,160

但、10月25日～26日、北
九州市への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交通費	28,160円	北九州市
日 当	6,200円	2 日
宿泊料	14,800円	1 泊
()	49,160円	

(会派名) 市民連合

(名 前) 西本章



研究研修・調査報告書

会 派 名	市 民 連 合	報 告 日	2023 年 11 月 16 日
代 表 者	池 上 文 夫 	報 告 者	小 山 友 康 
参 加 者	池上文夫 西本 章 小山友康		
実 施 日	2023 年 10 月 25 日（水）～26 日（木）		
研究研修・調査等の場所	福岡県北九州市小倉北区 （会場：西日本総合展示場）		
目 的	第 18 回全国市議会議長会研究フォーラム in 北九州		
研究研修・調査等の概要			
■大会テーマ：統一地方選挙の検証と地方議会の課題			
■基調講演 ：「躍動的でワクワクする市議会に」			
講師 片山喜博 大正大学教授兼地域構想研究所長			
(1) 講演要旨			
1、地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革を検証すると、現在は岐路に立っている→地方議会の選挙無投票の現状。			
2、日本の地方議会に欠けていることは何か。①地方議会の DX 化②、公開の場での真剣な議論、③税の議論。特に予算案の提案にもっとていねいに議論する。提案の裏を取る			
3、現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこととして、市民の声が聞こえない。			
4、議会の常識と市民の常識をすり合わせるー市民が首をかしげることはないか。			
5、今振り返って議会に感謝していること。「市民の意見を聞く会」を開き、子ども			

のいじめ、不登校の現状を知ることができた。

■パネルディスカッション

コーディネーター

谷 隆徳 日本経済新聞編集委員
「統一地方選挙を振り返る」

パネリスト

勢一智子 西南学院大学法学部教授
「人口減少社会の本格的到来がもたらすもの」

辻 陽 近畿大学法学部教授
(つじあきら) 「議員のなり手不足問題に宇おける自治体の課題」

濱田真理 Stand by Woman代表 女性議員のハラスメント相談
センター共同代表
「地方議会におけるハラスメントの実態から考える」

田仲常郎 北九州市議会議員
「カフェトーク in 北九州～議員とまちを語ろう～」

(資料集参照)

■課題討議

「議員のなりて不足問題への取組報告」

コーディネーター

江藤俊昭 大正大学社会共生学部公共政策学科教授
「議員のなりて不足問題の取組」

事例報告者

辻 弘之 登別市議会議員
「なり手を育てる 地方議会未来への種まき研究会」
～地方議員養成講座～

たぞえ麻友 一般社団法人 WOMAN SHIFT 理事・目黒区議会議員
「若手女性議員のネットワーク & ママの議員インターン」

長野慶一郎 枕崎市議会議員
「無投票選挙の克服をめざした4年間の歩み」

＝事例報告要旨＝

○政治を身近に感じさせない。生活に最も身近な自治体選挙が遠くに感じられ、
政治との接点が切断とは言わないまでも遠くなれば国政への政治も空虚になる。

○届きづらい女性の声を政治につなぎ、一つずつ解決していく。出産と選挙が両
立しづらい。旧姓使用ができない。など女性に対して大きな弊害がある。

○なりて不足に対する市民アンケート実施。原因は、選挙の負担を感じる。議会に
対して無関心。議員の仕事に魅力を感じないなど。議員定数減に50%が望んだ。

支 出 書

会 派 名	市 民 連 合	整理No. 2 — 2
科 目 (該当○印)	1 調査研究費 ☒ 2 研 修 費 3 資料作成費 4 資料購入費 5 広 報 費 6 広 聴 費 7 要請・陳情活動費 8 会 議 費 9 人 件 費 10 事 務 所 費	
金 額	245,820円	
支出年月日	2023年 10月 2日	
支 出 内 容	10月31日～11月1日 栃木県宇都宮市 「宇都宮市環境学習センター」 「中核市サミット2023in宇都宮」 への出張旅費	
支 出 先	別添、領収書のとおり	

領 収 書 (該当○印)	☒ (別紙の領収書添付用紙へ添付)
	無 領収書を添付することができないため、上記の 内容の支出をしたことを証明する。 会派の代表者名 印

別紙

領収書添付用紙

支出書整理No. 2 - 2

(領収書添付欄)

※領収書が重ならないよう1枚ずつ添付してください。

領 収 書

(会派名) 市民連合

2023年10月2日

(代表者) 池上文夫 様

¥81,940

但, 10月31日~11月1日,
宇都宮市への出張旅費

[内 訳] 上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交通費	60,940円	宇都宮市
日 当	6,200円	2 日
宿泊料	14,800円	1 泊
()	81,940円	

(会派名) 市民連合

(名 前) 池上文夫



領 収 書

(会派名) 市民連合

2023年10月2日

(代表者) 池上文夫 様

¥81,940

但, 10月31日~11月1日,
宇都宮市への出張旅費

[内 訳]

上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交通費	60,940円	宇都宮市
日 当	6,200円	2 日
宿泊料	14,800円	1 泊
()	81,940円	

(会派名) 市民連合
(名 前) 小山友康



領 収 書

(会派名) 市民連合

2023年10月2日

(代表者) 池上文夫 様

¥81,940

但, 10月31日~11月1日,
宇都宮市への出張旅費

[内 訳]

上記正に領収いたしました

	金 額	摘 要
交通費	60,940円	宇都宮市
日 当	6,200円	2 日
宿泊料	14,800円	1 泊
()	81,940円	

(会派名) 市民連合
(名 前) 西本章



研究研修・調査報告書

会 派 名	市 民 連 合	報 告 日	2023 年 11 月 24 日
代 表 者	池 上 文 夫 	報 告 者	小 山 友 康 
参 加 者	池上文夫 西本 章 小山友康		
実 施 日	2023 年 10 月 31 日 (火) ～ 2023 年 11 月 1 日 (水)		
研究研修・調査等の場所	栃木県宇都宮市 ① 宇都宮環境学習センター ② ライトキューブ宇都宮		
目 的	① 宇都宮環境学習センター訪問 ② 中核市サミット2023 in 宇都宮		
研究研修・調査等の概要			
(1) 宇都宮環境学習センター訪問の目的			
福山市のこれからの環境行政、ごみ処理施設について学習			
宇都宮環境学習センター・環境未来館 センター長 赤石澤 亮			
宇都宮市環境部環境創造部もったいない環境グループ 係長 手塚知里			
① 宇都宮環境学習センターの建てられた目的・現状・地域で果たす役割など			
環境に関する学習の機会を提供し、市民の環境への意識の向上を図るととも			
環境学習の拠点として楽しみながら体験・活動できる場を提供する			
市内小学4年生を対象とした施設見学を実施し、環境イベントなど、年間			
200回以上の講座を開催している。小学校への出前講座や高校との連携事業等による人材育成も果たしている。			
1F 展示ホールでは環境に関するさまざまな情報を集め、地域に開かれたコミュニケーションの場を提供している。			

(2) 中核市サミット2023 in 宇都宮

テーマ：未来世代への責任と実践～夢や希望がかなう中核市をめざして～

① 基調講演：森本章倫 早稲田大学理工学術院創造理工学部教授

「未来に向けた交通と都市計画」

○少子高齢化による財政状況に悪化や自然災害への対応など、新たなライフスタイルを求められ、コロナかがその傾向をさらに加速化させた。社会のデジタル化や官民連携の組織が求められている。今後は生活様式の変化、技術革新による変、脱炭素化への条件整備など、可視化された関係者の意見を集約することが求められている。

② パネルディスカッション

第1会場；子どもを守り「未来世代につなぐ」まちづくり

石井大一郎：宇都宮大学 地域デザイン科准教授

蟹江 教子：宇都宮共和大学 子ども生活学部教授

人口減少が加速し、2008年をピークに減少を続ける中、2022年の出生数が初めて80万人を下回った。地域や企業など社会全体で取り組んでいく必要がある。また全国的に、児童虐待相談の件数が過去最多となるなど、子どもを取り巻く環境が深刻化するとともに子どもの貧困やヤングケアラー等の子どもや家庭が抱える問題が多様化・複雑化している。

第2会場；脱炭素化で「未来世代につなぐ」まちづくり

林 泰弘：早稲田大学理工学術院先進理工学部教授

森本 章倫：早稲田大学理工学術院創造理工学部教授

気候温暖化により激甚化・頻発化する自然災害をはじめ地球規模で環境問題が深刻化しているなかで、2015年のSDGsやパリ協定の採択を受け、国際的に環境・エネルギー問題に関心が高まっている。脱炭素化を進めるため、再生可能エネルギーを積極的に創出・利用するほか、二酸化炭素排出量に大きく影響を与え続ける都市・地域構造や社会システムを脱炭素社会にふさわしいものに変革していく必要がある。